

家族の家事への意識に変化は?



絆とともに、主婦休みの日に考えたいのが家事について。震災後の家族の家事参加について聞いたところ、16%の人が夫や子どもが初めてもしくは、これまで以上に家事に参加してくれるようになったと回答。新たにするようになった家事としては、子どもは「部屋の電気を消す」(42%)、夫は「食品や日用品の買い物」(43・8%)がトップになっています。

主婦の元氣はニッポンの元氣!
主婦休みの日!

できることを見つけ 率先して家事参加

工場の操業停止などによる商品不足や節電のため、家族みんながそれぞれ自分でできることを見つけ、率先して行うようになったようです。

「主婦休みの日」を取るためには、家族の家事への参加が不可欠です。これを機に、家族全員で家事をする習慣がつくといいかもれませんね。

ミセスが証言!

私たちが「絆が深まった」と感じた瞬間

- ♥ 停電4日、水道も5日出ない生活。気持ちが落ち込み不安定になったとき、普段ぶっきらぼうな夫もずいぶん支えてくれました(宮城県・34)
- ♥ 地震当日に、夫が4時間半かけて自宅まで戻ってきてくれて、安心してし心強かったです(神奈川県・30)
- ♥ 福島から親戚が我が家に避難してきました。年に数回しか連絡を取っていなかったのですが、頻りに連絡を取るようになったのですが、頻りに身の回りのことを気にかけてくれるようになりました(東京都・37)
- ♥ 子どもは今、反抗期ですが、震災後は家族と一緒にひとつの部屋に雑魚寝しました(東京都・46)

Interview



誰もができることをし
できないことは助け合って



辰巳渚さん
編集者を経て、フリーのマーケティングプランナー、ライターとして独立。2000年に著書「捨てる!」技術」が100万部のベストセラーに。現在「家事塾」代表
<http://kajijuku.com/>

家事、つまり家でしているコトは、自分自身や家族が生きる営みそのものです。「家のコトは生きるコト」なのです。普段は、家のコトはあたりまえでつまらないことのように思いがちだけれど、そのあたりまえが奪われたとき、それこそが私や家族を支えていたのだと気づきます。震災後、関東にいながらショックでただ疲れ切っていたとき、私は掃除や洗

濯を普通にするところから始めました。その作業が、私をニュートラルに戻してくれたのです。同じような経験をした人も多いと思います。これまでの「男女の家事分担」「家事の裏ワザ」などの視点を超えて、私たちは、誰もができることをし、できないことは助け合っながら、暮らしと家族にもとづいて生きる時代を迎えているのではないのでしょうか。